

# ボイラー② 排ガス温度の低減で約8%の省エネ！

## ◆ 病院(延床面積 11,000㎡)の事例

ボイラの排ガス温度が380℃と高く、排ガス損失が生じている。

ボイラの排ガス温度を、380℃から220℃まで低下させると…  
(省エネ法の基準排ガス温度:220℃(小型貫流ボイラ))



- ★ 年間 3,064m<sup>3</sup> の省エネ！ (都市ガス)
- ★ 年間 53.0万円 のコスト削減！
- ★ 投資 0円！

削減効果  
削減額  
CO<sub>2</sub>削減量

$3,064\text{m}^3/\text{年} = 38,306\text{m}^3/\text{年} \times 8\%$   
 $529,612\text{円} = 3,064\text{m}^3/\text{年} \times 172.85\text{円}/\text{m}^3$   
 $7.0\text{tCO}_2/\text{年} = 3,064\text{m}^3/\text{年} \times 45\text{GJ}/\text{千m}^3 \times 0.0509\text{tCO}_2/\text{GJ} \div 1,000$



ボイラ



### 省エネのポイント！

排ガス温度が上昇すると排ガス損失も増加します。  
省エネ法の判断基準をもとに**適正な温度**に調整するよう、  
メンテナンス業者等に検討を依頼してください。  
また、伝熱面の汚れやスケールの付着により  
熱伝達率が低下して、排ガス温度が上昇する  
こともありますので、**適切にメンテナンス**を行って  
ください。